

# 台風第 14 号に伴う事後対応について

令和 4 年 9 月 20 日  
新潟県農林水産部

9 月 18～19 日にかけて、胴割粒発生の危険水準を超える乾燥状態が観測されました。

コシヒカリでは、胴割粒発生の危険が高まっているので、できる限り速やかに収穫してください。

新之助でも、急速に籾水分が低下した可能性があります。ほ場を確認し、成熟期を迎えている場合は優先して収穫するなど品質確保に努めてください。

ていねいな乾燥・調製で品質を確保しましょう。

## 〔気象状況〕

新潟県では、台風第 14 号の影響で 17～19 日にかけて、フェーン現象による異常高温と乾燥が発生しました。3 日ともコシヒカリの胴割粒発生の危険水準  $9\text{g}/\text{m}^3$  を超える日平均飽差<sup>\*1</sup>が観測され、特に 19 日は全ての地点で  $9\text{g}/\text{m}^3$  を超えました。

<sup>\*1</sup>: 飽差は空気の乾燥程度を示す指標。数字が大きいほど乾燥程度が大きいことを示す。胴割粒が増加する日平均飽差の基準は新之助  $6\text{g}/\text{m}^3$  以上、コシヒカリ、こしいぶき  $9\text{g}/\text{m}^3$  以上

## 〔当面の管理対策〕

籾の黄化状況を確認し、成熟期を迎えたコシヒカリでは、晴れ間を逃さずできる限り速やかに収穫してください。

籾水分が 22% 未満の時期に極度に乾燥した状態に遭遇すると胴割粒が急増します。新之助では、ほ場によって籾水分を確認し、22% を下回る場合は出穂期後積算気温 900、籾黄化率 80～85% を収穫始期のめやすとし、通常より早めに収穫してください。

成熟期頃にフェーン現象に遭遇し、籾水分が急速に低下した場合は、胴割れの発生を防止するため、日中の加熱乾燥を避け、常温で通風乾燥を行いましょ。点火は夜間等気温が下がってから、毎時乾燥速度が 0.5% 以下になるよう送風温度を低めに設定して乾燥してください。

乾燥機に 2 段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合はそれを活用しましょう。

参考資料

県内アメダス観測地点(湿度を測定する7地点)における日平均飽差の実測値  
(令和4年9月17日から19日まで)  
( g/m<sup>3</sup> )

地点名		村上	新潟	新津	柏崎	大潟	高田	相川
実測値	9/17 (土)	3.8	10.7	9.9	6.1 ○	7.2 ○	11.1	8.0 ○
	9/18 (日)	5.1	9.0	7.8 ○	7.2 ○	9.4	11.7	10.8
	9/19 (月)	9.7	12.0	10.2	10.8	13.7	14.2	14.6

数値下の記号について 6.0未満：なし 6.0以上9.0未満：○ 9.0以上：

この値は、「台風第14号に伴う事後対応」発出の対象となった期間における毎時の気温・湿度から飽差を計算し一日分を平均した実測値です。

実測値は下記ホームページにも掲載しています。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/nouen/r4sui tou.html>

飽差 ( g/m<sup>3</sup> ) とは

1立方メートルの空気中に、あと何グラムの水蒸気を含むことができるかを示す値のことで、空気の乾燥程度を表しています。この数値が大きいほど、空気中により多くの水分を含むことができ、曇りやすい状態であることを示します。

初水分が22%未満の時に新之助では6 g/m<sup>3</sup>以上、コシヒカリでは9 g/m<sup>3</sup>以上の日平均飽差に遭遇すると、胴割粒が増加する傾向があります。

異常乾燥への対応(フェーンや乾燥による胴割粒の多発を抑制する早期収穫判断のめやす)については、令和4年9月8日発行の「水稻の生育状況と今後の管理対策(第6号)」を参考にしてください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/uploaded/attachment/333766.pdf>